

中谷治宇二郎 （あがひ じうじろ） 考古學者。明治二十五年一月二十一日石川縣片山津生れ。昭和十一年二月二十一日歿（一九三二—三六）。物理學者中谷宇吉郎の弟。大正八年小松中學校を卒業後、上京して新池寛の門下生として新劇運動に加はり、新聞記者を修業、（中）字時代から小説を書き、作家も望んで芥川竜之介、新池寛などと文通しておられたといふ（八幡一郎）。十一年東洋大學に入り、イノンド哲學を専攻し、病を纏て退く。

十三年東京帝國大學理學部人類學撰料生となり、松村謙の師事して先史學の研究に従事。昭和四年フランスに留學、病再發して歸國後、湯布院で靜養中歿す。

著書に、『日本先史學序史』（昭和十年十一月二十五日岩波書店）、『日本繩文文化の研究』（中谷治宇二郎先生遺稿編集委員会編、昭和四十二年八月二十五日昭森社）、『考古學研究への旅—パリの手記』（昭和六十年十一月二十日六興出版）等。

